avantgarde
ACOUSTIC

uno fino
取扱説明書

お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに
保証書と一緒に大切に保管してください。

安全にお使いいただくために 2
使用上の注意 4
設　置 5
各部の名称 (背面) 8
接続について 10
接続例 1 (シングルワイヤー接続) 11
接続例 2 (バイワイヤリング接続) 12
接続 (その他) 13
サブウーハーのレベル調節 14
スピーカーの向きの調節 15
サブソニックフィルター 16
仕　様 17
お手入れ 18
保証とアフターサービス 19

安全にお使いいただくために

あなたや他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

⚠ 警告	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。
 電源プラグをコンセントから抜け	**万一、異常が起きたら** **煙が出たり、変なにおいや音がするときは。** **機器の内部に異物や水などが入ったときは。** **この機器を落としたり、キャビネットを破損したときは。** すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に修理をご依頼ください。
 禁止	**電源コードを傷つけない。** **電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない。** **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。** コードが破損すると火災・感電の原因となります。万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に交換をご依頼ください。
	電源プラグにほこりをためない。 電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない。 この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない。 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。
 分解禁止	**この機器のキャビネットは絶対に外さない。** キャビネットを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご依頼ください。
	この機器を改造しない。 火災・感電の原因となります。
 強制	**この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。** **ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける。** 機器のまわりにすきまがないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。

記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

⚠ 注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。
強制	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。** **また、接続は指定のコードを使用する。** それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。
	電源を入れる前には音量を最小にする。 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器は大変重いので(約55kg)、開梱や持ち運びの際は怪我をしないように注意する。
	この機器はスパイク脚を備えているので、設置の際は怪我をしないように注意する。
	安定した場所に設置する。 不安定な場所に設置すると、転倒するなどして怪我の原因になることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにする。 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。
禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない。** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない。** 火災・感電や怪我の原因となることがあります。
	この機器の付属の電源コードセットを他の機器に使用しない。 故障、火災、感電の原因となります。
	電源コードを熱器具に近付けない。 コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。 コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
電源プラグをコンセントから抜け	**移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す。** コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。
	お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電の原因となることがあります。

使用上の注意

使用上の注意

● ホーンの部分に強い力を与えないでください。スピーカーを移動するときは、ホーンには触らずに、底にある金属製のベース部分をつかんでください。

● ホーンとスタンドの留め具がゆるんでいないか､定期的に確認してください。留め具がゆるんでいた場合は、手できつく締め直してください。

● ホーンや前面グリル部に硬いものを当てないでください。傷がついたり、スピーカーユニットが損傷する恐れがあります。

● 本機は防磁型ではありません。テレビやコンピュータのモニターから、1m以上離して置いてください。
また、本機の上に磁気記録のカード類(キャッシュカードや定期券など)、テープ類(ビデオテープやカセットなど)、ディスク類(フロッピーディスクやMDなど)、および磁気の影響を受けやすい物を置かないでください。磁気により、データの消失や破損の原因となります。

● アンプからの入力は適正な範囲でお聴きください。過大な入力は、スピーカーユニットを破損するおそれがあります。
また、許容入力以下であっても、クリッピングノイズなどの多い信号はスピーカーユニットに悪影響を与えます。アンプ側でも音が歪まないようにご注意ください。

設置についての注意

● 直射日光があたる場所や暖房器具のそばなど、高温になる場所に設置しないでください。損傷の原因となることがあります。

● 加湿器のそばなど、湿度が高い場所に設置しないでください。また、油煙があたる場所には設置しないでください。損傷の原因となることがあります。

● ぐらついた台の上や傾いた所、振動する場所などには設置しないでください。落下したり倒れたりして、怪我や損傷の原因になります。

● 前方に反射や共振を起こす物が無いことが理想です。ガラス戸などがある場合、共振を起こすことがあります。共振が起きないようしっかり固定するか、厚めのカーテンなどで吸音させてください。
また、平行した壁面では定在波が起きやすいため、家具を配置して平行を崩したり、厚手のカーテンなどで吸音させてください。

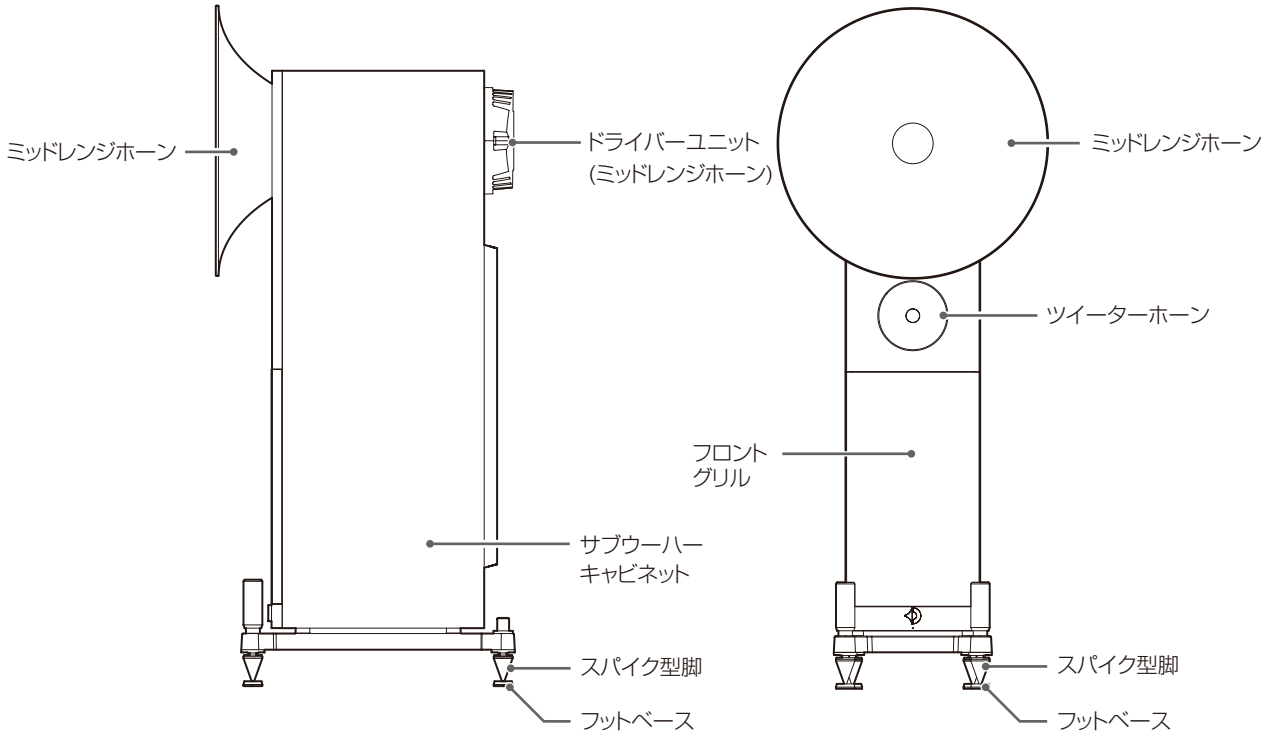
● 設置する床が弱いと、低音域で共振しがちになります。床が弱い場合は、硬い板などを下に敷くのが最も効果的です。

● スピーカーシステムと聴取位置の間には、物を置かないでください。物があると直接音が遮られ、音質が変わる原因となります。

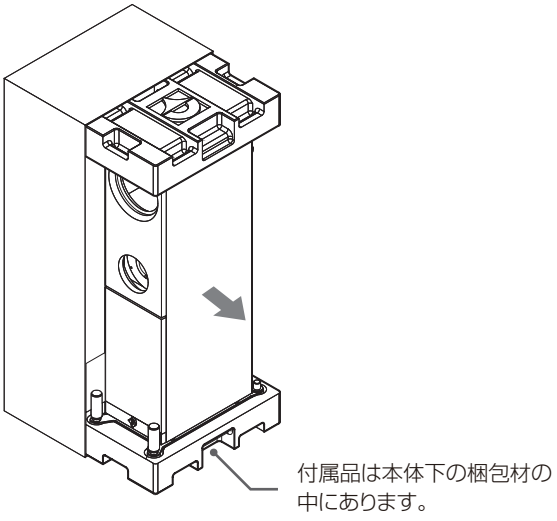
● 放熱をよくするために、風通しのよい場所に設置してください。

設　置

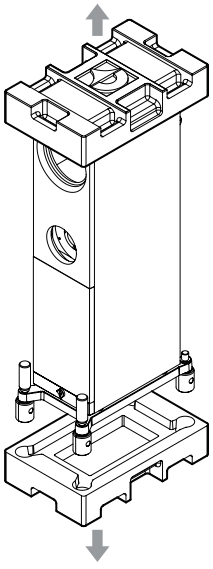
⚠ **本機は大変重く、スパイク型脚で怪我をする可能性があるので、必ず3人以上で慎重に作業してください。**



1 **箱を立てて、開口部を横に向け、梱包材ごと取り出す。**



2 **上下の梱包材を外す。**



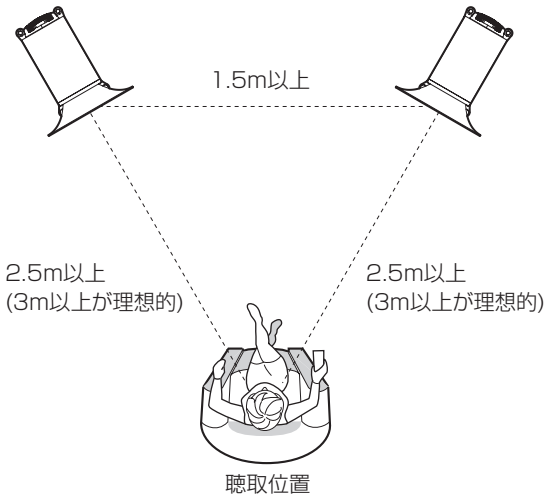
- 強い力を加えると破損する恐れがあります。スピーカーを動かすときは、底にある金属製のベース部分をつかんでください。
- 下側の梱包材は、二人以上で本機を持ち上げて外してください。本機を持ち上げるときは、底にある金属製のベース部分をつかんでください。

次のページに続きます

設　置（続き）

3 設置場所を決めてスピーカー本体を立てる。

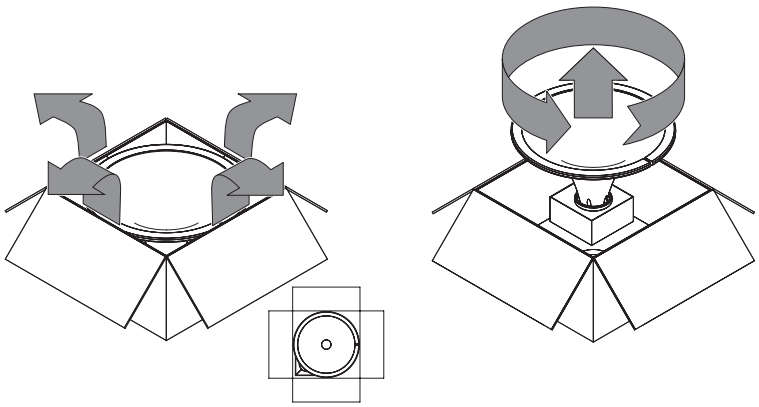
左右のスピーカーは、下図のようにホーンの面を内側にして、聴取位置に向けて等距離に設置してください。聴取位置までの距離が3メートル程度の二等辺三角形が理想です。
左右のスピーカーの間隔は、1.5m以上あけてください。



- ホーンに強い力を与えると破損する恐れがあります。スピーカーを動かすときは底にある金属製のベース部分をつかんでください。
- 壁のすぐ側や部屋の角に設置しても構いません。その場合は、サブウーハーのレベル調節(14ページ)とスピーカーの向きの調節(15ページ)を適切に行ってください。ただし警告(2ページ)を良く読んで設置してください。
- **スパイク型脚の保護キャップは設置/接続の後、音質の調整をしてスピーカーの最終的な設置場所が決まるまでは外さないでください。**フットベースの裏側はゴム系の素材で滑りにくくなっていますので、保護キャップを外した後はスピーカーの移動が出来ません。

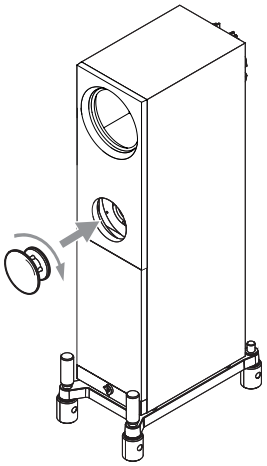
4 ミッドレンジホーン、ツイーターホーンを取り出す。

ホーンの梱包箱を開けて、ミッドレンジホーン、ツイーターホーンを反時計回りに回して、梱包箱から取り出します。



5 ツイーターホーンを取り付ける。

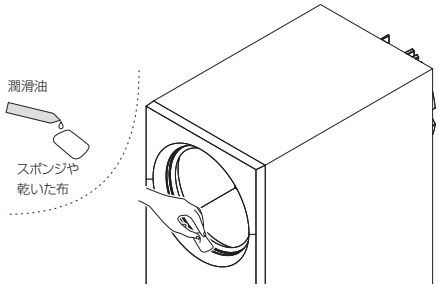
右回りにねじ込んで取り付けてください。



6 ミッドレンジホーンを取り付ける。

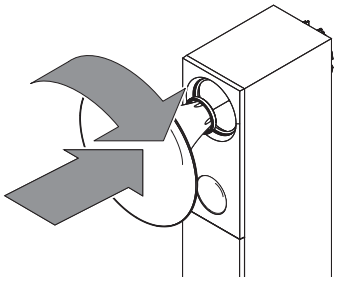
取り付ける前にスポンジや乾いた布に潤滑油をつけて、ドライバーユニット開口部の内側のゴムの部分に塗った後、余分な油を乾いた布などで拭き取ってください。

⚠ 潤滑油が目に入ってしまった場合は、すぐに流水で15分間ほど洗い流し、医師の診断を受けてください。



● 潤滑油は付けすぎず、必ず余分な油を拭き取ってください。油が誤ってコーン紙に付かないよう慎重に作業してください。

ミッドレンジホーンを右回りにねじ込んで取り付けてください。

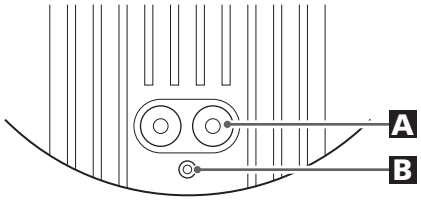


上手くかみ合うまで時間を掛けて慎重にゆっくりと回してください。

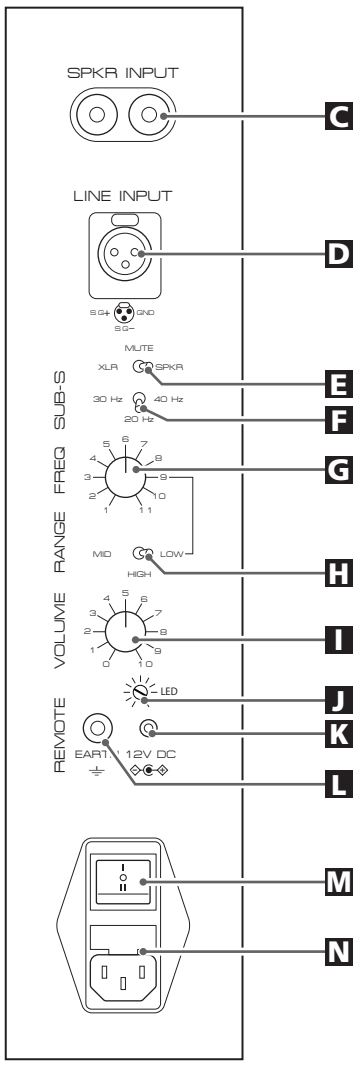
● 上手くかみ合わない場合は、数回逆転(左回り)させてかみ合わせのポイントを見つけ、再度右回りにねじ込んでください。

各部の名称 (背面)

ミッドレンジホーン背面



サブウーハーキャビネット背面



A スピーカー入力端子 (ミッドレンジ)

アンプのスピーカー端子と接続します。(10〜13ページ)

B アース端子 (ミッドレンジ)

付属のアース用ジャンパーケーブルでサブウーハーに接続します。

● 安全アースではありません。

C スピーカー入力端子 (ツイーター /サブウーハー)

アンプのスピーカー端子と接続します。(10〜13ページ)

● サブウーハーにXLR端子から信号を入力する場合は、ツイーターホーン用のスピーカー入力端子となります。

D XLR端子

サブウーハーを、市販のバランス型XLRケーブルを使って、アンプのXLRプリアウト端子と接続することができます。
アンプ側にRCA端子しかない場合は、市販のRCA/XLR変換アダプターをお使いください。

XLRピン番号：1.COMMON、2.HOT(+)、3.COLD(−)

E 入力切換スイッチ

SPKR：
サブウーハーにスピーカー入力端子から信号を入力する場合はこちらを選んでください。
XLR：
サブウーハーにXLR端子から信号を入力する場合はこちらを選んでください。
MUTE：
サブウーハーの入力をオフにします。ハムノイズなど、トラブルの原因をチェックするときに便利です。

F SUB-S(サブソニック)スイッチ

レコードを再生する時などに、不要な低音をカットします。通常は20Hzを選んでください。30Hz(または40Hz)に切り換えると、30Hz(または40Hz)以下の低音をカットすることができます。

G FREQつまみ

サブウーハーのクロスオーバー周波数を調節します。

RANGEスイッチで調節する帯域を選んでから、FREQつまみで調節してください。つまみを右にまわすと周波数が高くなり、左にまわすと低くなります。
(たとえば、RANGEスイッチでLOWを選んだ場合、FREQつまみを1に合わせるとクロスオーバー周波数は60Hz、11に合わせると150Hzになります)

意図的に高く設定すると、サブウーハーとミッドレンジの帯域が一部重なって、音に厚みが増します。低く設定すると、サブウーハーとミッドレンジの帯域の重なりが減るので、よりダイナミックな音になります。ただし、各ユニットのつながりが悪くならないように十分注意して適切に設定してください。
一般的に、周波数を高くしたときはサブウーハーの音量を小さめに、周波数を低くしたときは音量を大きめに調節し直す必要があります。

H RANGEスイッチ

FREQつまみの調節範囲を選びます。

LOW：60～150Hz
MID：120～200Hz
HIGH：170～350Hz

I VOLUMEつまみ

サブウーハーの音量を調節します。つまみを右にまわすと大きくなり、左にまわすと小さくなります。

J 電源LED輝度調節スイッチ

スピーカーの正面にある電源LEDの明るさを調節します。
- つまみを右に回すと明るくなり、左に回すと暗くなります。

K リモート端子

アンプなどのリモートアウト端子(+12V DC)と接続し、電源スイッチを「II (リモート)」にしておくと、アンプの電源スイッチでサブウーハーをオン/オフできます。

L アース端子(ツイーター /サブウーハー)

付属のグラウンドジャンパーケーブルでミッドレンジホーン、アンプそれぞれのアース端子に接続します。

- 安全アースではありません。

M 電源スイッチ

I (オン)：
電源が常にオンになります。
無信号時の消費電力は約15Wです。

O (オフ)：
電源が常にオフになります。長期間使わないときはオフにしてください。
スイッチを切り換えたときにノイズが出ることがありますが、故障ではありません。

II (リモート)：
リモート端子に接続した機器の電源スイッチで電源をオン/オフするときに選びます。

N 電源コード接続ソケットとヒューズ

付属の電源コードを差し込みます。

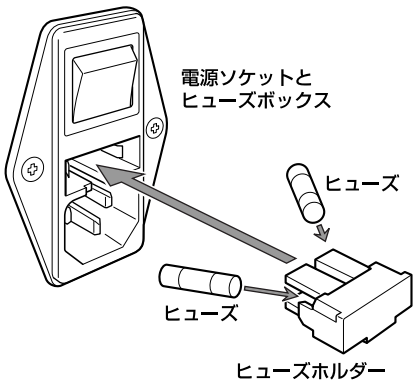
ヒューズについて

もしもサブウーハーの電源が入らない場合は、電源コードを抜いて、ヒューズが切れていないか確認してください。ヒューズが切れている場合は、新しいヒューズ(3.15A)に交換してください。

- ヒューズボックスには予備のヒューズが入っています。
- 交換後もすぐにヒューズが切れる場合は、販売店または当社へご連絡ください。

交換の方法

1. 電源スイッチを切り、電源コードを抜いてください。
2. 電源ソケットの上のヒューズホルダーを爪または小型のマイナスドライバーで手前に引き出します。
3. 新しいヒューズに交換後、ヒューズホルダーをヒューズボックスの奥まで、確実に押し込んでください。



接続について

付属のケーブルについて

ジャンパーケーブル(スピーカー用)

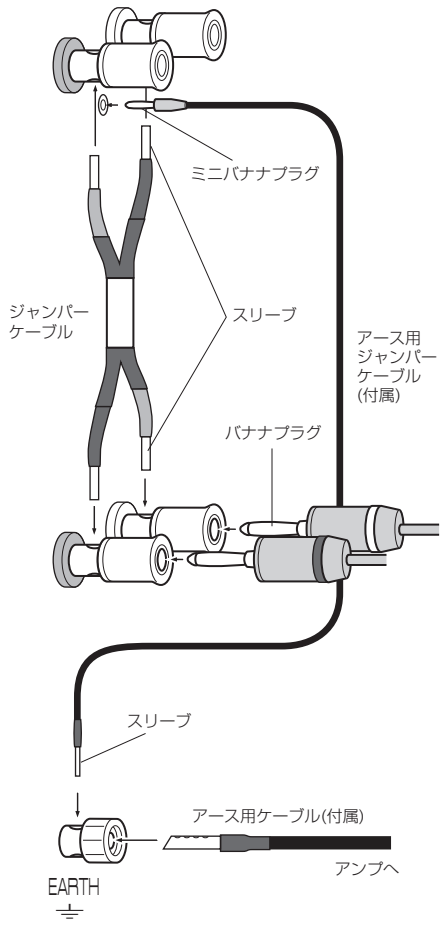
シングルワイヤー接続(接続例1)では、本機の端子同士を付属のジャンパーケーブルで接続する必要があります。

付属のジャンパーケーブルは、端末がスリーブになっています。一つの端子に２本のケーブルを接続する場合は、バナナプラグと組み合わせて接続してください。

アース用ケーブル

ハムノイズが発生する場合など、アンプとアース接続をすると改善することがあります。
改善しない場合は、サブウーハーとアンプの電源コードを同じ電源コンセントに接続したり、本機の電源コードを市販の3Pタイプ(ただしアース端子が導通しているもの)に変更するなどの方法をお試しください。いずれかの方法、または上記方法の組み合わせで改善する低くブーンとうなる微弱なハムノイズは本機の故障によるものではありません。

アース接続する場合は、付属のアース用ジャンパーケーブルのミニバナナプラグをミッドレンジホーンのアース端子に、スリーブをツイーター / サブウーハーのアース端子に接続してください。
さらに、付属のアースケーブルでアンプと接続してください。



スピーカーケーブルについて

- アンプとの接続には、市販のスピーカー専用ケーブルをお使いください。

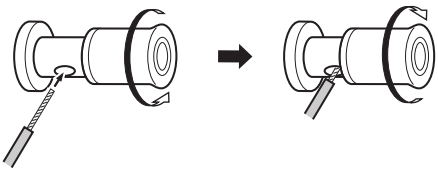
- スピーカーケーブルはできるだけ短いものをご用意ください。ケーブルは長くなるほど抵抗値が増加し、ダンピング特性が劣化します。また、インダクタンスやキャパシタンスも増加し、高域の音質が劣化します。

- 左右のスピーカーケーブルは、同じ長さの物を使用してください。バイワイヤリング接続する場合も、高音用と低音用のケーブルは同じ長さにしてください。

接続の方法

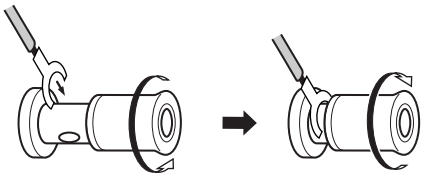
- 接続の前に、必ずアンプの電源を切り、音量を絞ってください。
- 接続が終わったら、ケーブルの端末が他のターミナルやケーブルに接触していないことを確認してください。
- 接続の作業中に、他のスイッチに触れて設定が変わってしまわないように注意してください。

より線／スリーブの場合



つまみをゆるめてターミナルの奥の穴に芯線を差し込んでから、つまみを締めます。

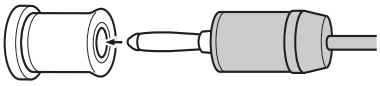
Ｙラグ端子の場合



つまみをゆるめてＹラグ端子を挟んでから、つまみを締めます。

- Ｙラグ端子は、内径 6mm ～ 8mm のものをお使いください。

バナナプラグの場合



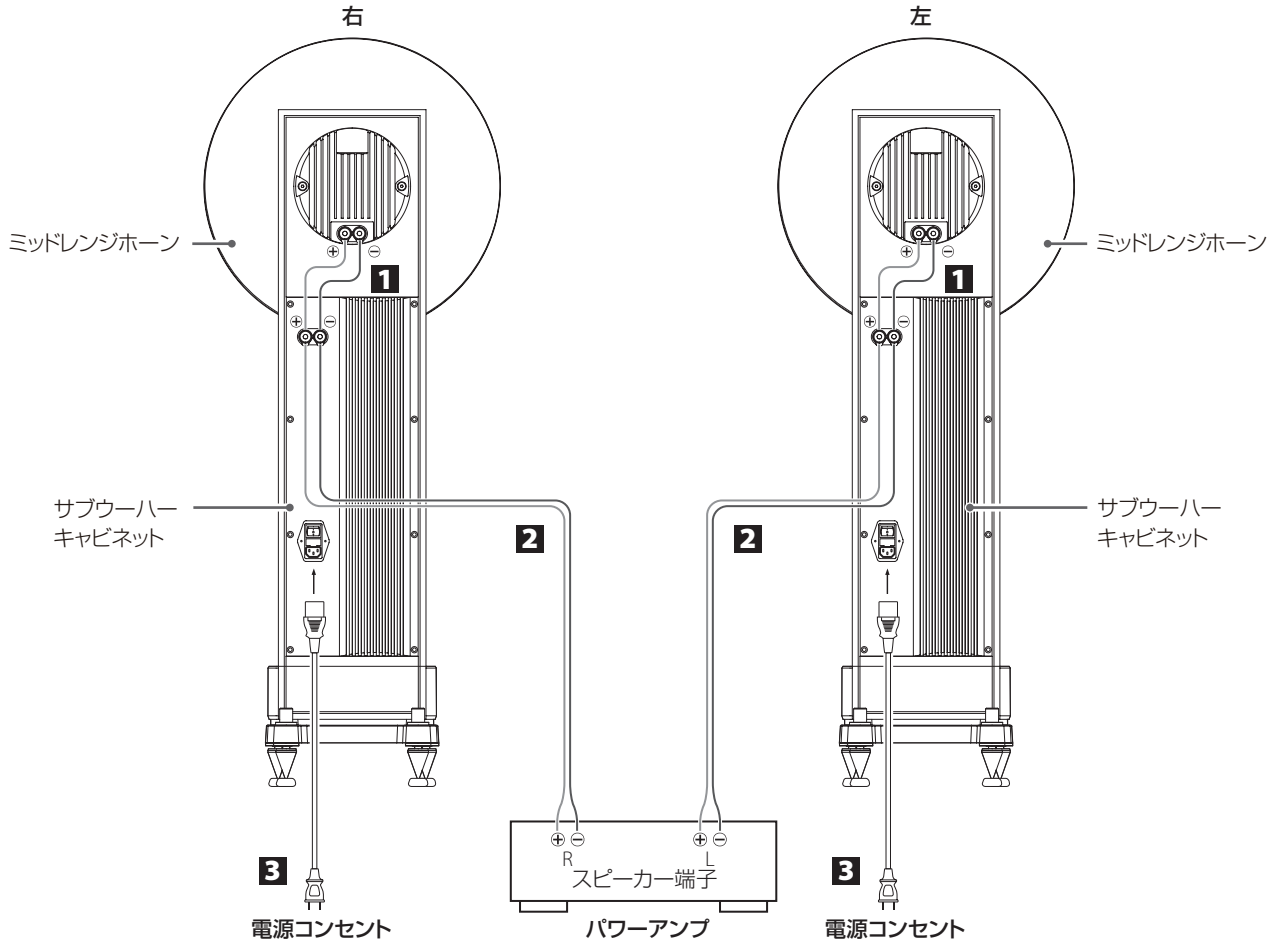
スピーカーケーブルをバナナプラグに接続してから、プラグをターミナルに差し込みます。

- ご使用になるバナナプラグの説明書をよくお読みください。

接続例 1 (シングルワイヤー接続)

⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。



シングルワイヤー接続の例です。

1 ミッドレンジホーンの端子とツイーター /サブウーハーのスピーカー入力端子を付属のジャンパーケーブルで接続する。

各端子は、⊕端子(赤)同士、⊖端子(黒)同士を接続してください。

2 ツイーター /サブウーハーの端子とアンプのスピーカー端子を、市販のスピーカーケーブルで接続する。

市販のスピーカーケーブルを使って、スピーカーの⊕端子をアンプの⊕端子と、⊖端子をアンプの⊖端子と接続してください。

- アンプとの接続は、お好みによりミッドレンジホーンの端子と接続することも可能です。

3 サブウーハーの電源コード接続ソケットに付属の電源コードを差し込む。

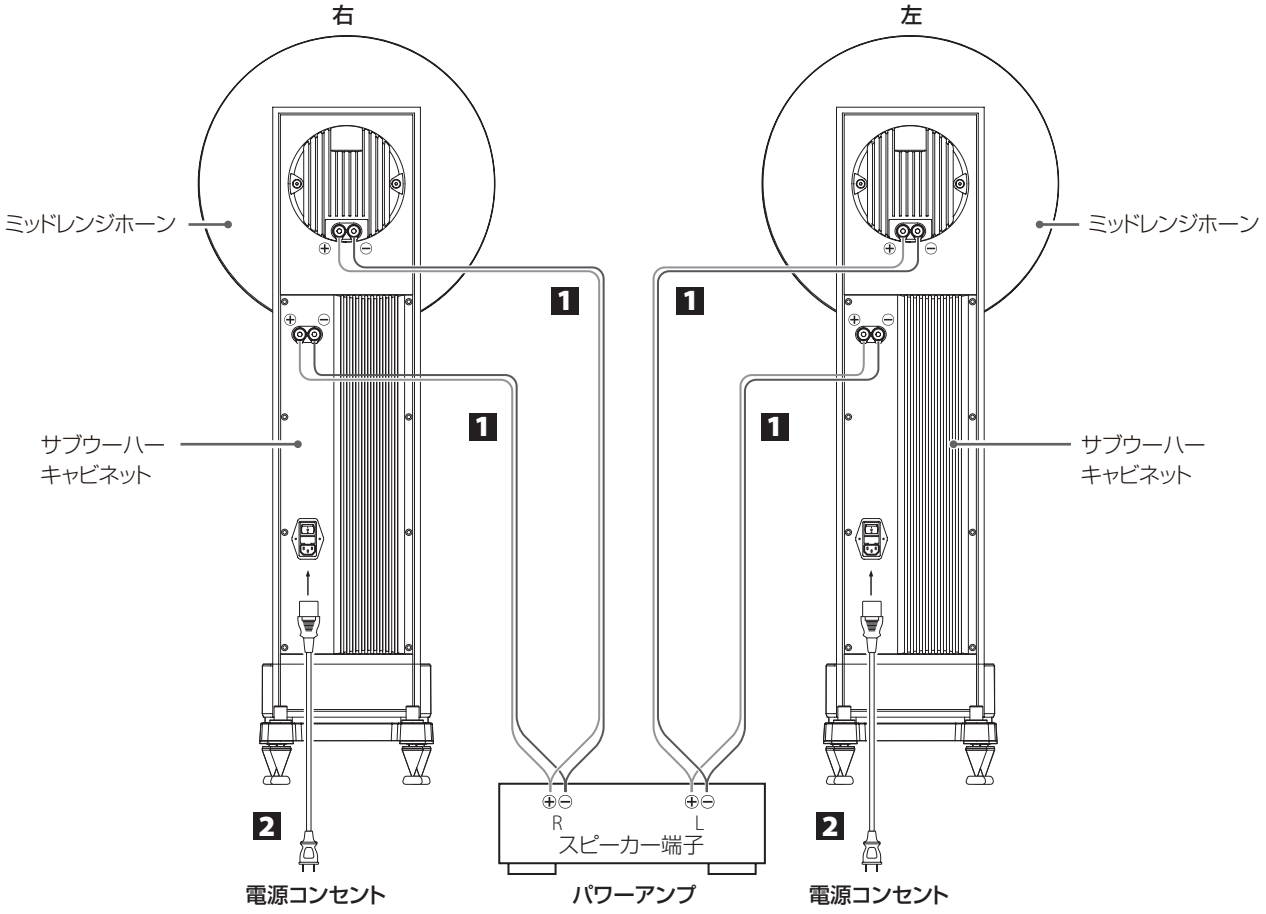
全ての接続が終わったら、電源プラグをAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

⚠ 指定の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

接続例 2 (バイワイヤリング接続)

⚠ 接続時の注意

● 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
● 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。



バイワイヤリング接続の例です。

1 ミッドレンジホーンの端子とツイーター /サブウーハーの端子を、それぞれアンプのスピーカー端子と接続する。

市販の同じ長さの2組のスピーカーケーブルを使って、スピーカーの⊕端子をアンプの⊕端子と、⊖端子をアンプの⊖端子と接続してください。

● バイワイヤリング接続のときは、付属のジャンパーケーブルは使用しません。

2 サブウーハーの電源コード接続ソケットに付属の電源コードを差し込む。

全ての接続が終わったら、電源プラグをAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

⚠ 指定の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

接続 (その他)

サブウーハーの XLR 端子を使う接続

サブウーハーは、XLR端子(インピーダンス：150Ω)を使ってBTLアンプやプリアンプからのラインレベルの信号を入力することが可能です。
(インピーダンスの適合やバランスをとるのが難しい場合があるので、Avantgarde社はスピーカー接続を推奨しています)

INPUTスイッチをXLRに切り換えてご使用ください。

- 接続するアンプの出力端子のインピーダンスが適合するかどうか確認してください。

- XLR端子はサブウーハー専用の入力端子です。
  INPUTスイッチをXLRに切り換えた場合は、スピーカー入力端子(ツイーター /サブウーハー)はツイーター専用になります。ツイーターから出力するためには、接続例1/接続例2などと同様に、スピーカー入力端子(ツイーター /サブウーハー)もアンプのスピーカー端子に接続してください。

- サブウーハーの接続方法がツイーター /ミッドレンジと異なりますので、クロスオーバー周波数、レベルなどを調節してバランスをとってください。

位相チェックについて

左右のスピーカーの極性(⊕/⊖)が一致していないと、位相が合わないために、正しいステレオ再生音が得られません。

位相チェックは、低音がよく入っているプログラムソースを左右のスピーカーからモノラルで出して聴き比べます。

位相が合っている場合は、低音が豊かによく出て、音像が左右のスピーカーの中央に定位します。位相が合っていない場合は、低音が出ず音像がぼやけて定位しません。このような場合は、スピーカーとアンプ間の接続の極性(⊕/⊖)を確認してください。一方だけ、極性を逆に接続しなおすと正しい位相になります。

サブウーハーのレベル調節

1 **INPUTスイッチ、SUBSONICスイッチ、周波数つまみ、VOLUMEつまみを、右の「図1」の状態にする。**

2 **ソース、プリアンプ、パワーアンプの電源をオンにしてから、サブウーハーの電源をオンにする。**

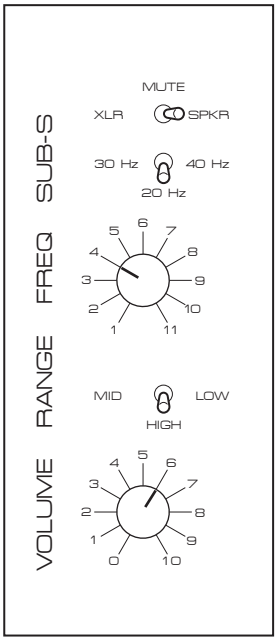
3 **音を聴きながらSUB-Sスイッチ、FREQつまみ、VOLUMEつまみを微調整する。**

低音を含んだソースを、聴く音量で再生しながら調節してください。
FREQつまみは、RANGEスイッチで調節範囲を選んでから調節してください。

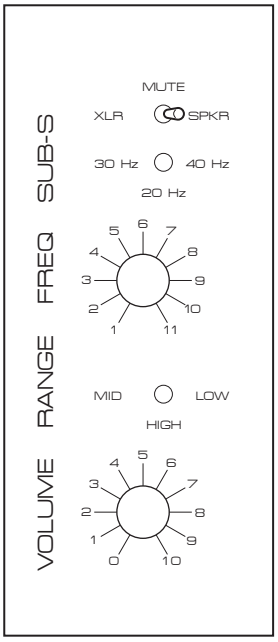
調節した結果を右の「調査結果」に書き込んでおくと便利です。

● サブウーハーをXLR接続する場合は、SUB-Sスイッチを XLRに切り換えてご使用ください。

図1 uno fino



調節結果



スピーカーの向きの調節

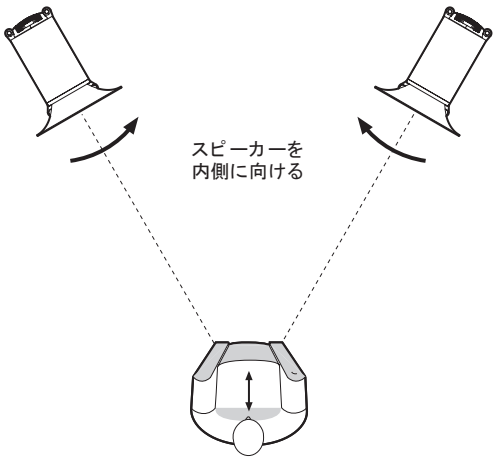
左右の向きの調節

左右のスピーカーはリスニングポジションに向けて正しく設置することをおすすめします。
スピーカーの向きの調節が適切に行われていれば、左右のスピーカーの距離やリスニングポジションまでの距離を、せばめたり広げたりしてもかまいません。

1 聞きなれたソースを再生しながら、リスニングポジションで頭を前後に動かし、もっとも良い音のする位置を探す。

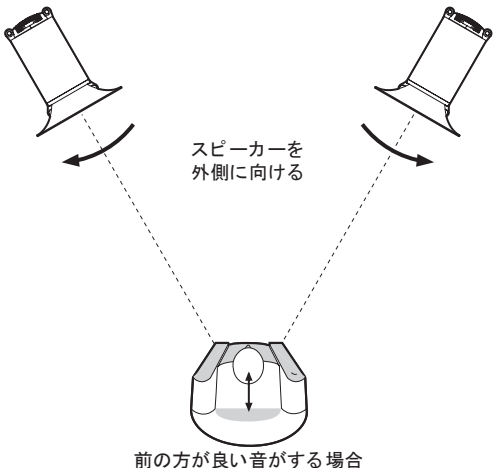
いつもお聴きになるポジションがもっとも良い場合は調節の必要はありません。

2 頭を後ろに動かしたときに良い音がする場合は、スピーカーを少し内側に向ける。



後ろの方が良い音がする場合

3 頭を前に動かした時に良い音がする場合は、スピーカーを少し外側に向ける。



前の方が良い音がする場合

スピーカーの向きを変える場合は、少しずつ行ってください。また、いろいろなソースを再生して確認しながら行ってください。

上下の傾きの調節

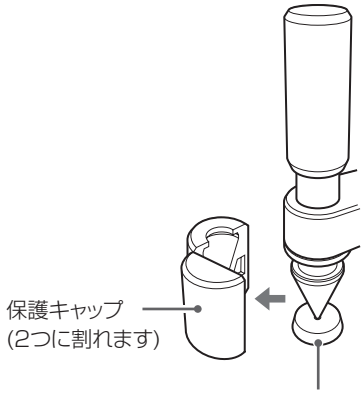
聴取位置のスピーカーからの距離や床からの高さによっては、音質の向上のため、スピーカーの傾きを調節する必要があります。これは、設置した床に傾きがある場合の補正にもなります。

1 スパイク型脚の保護キャップを外す。

フットベースの裏側はゴム系の素材で滑りにくくなっていますので、**保護キャップを外した後はスピーカーの移動が出来ません。**
音を出してスピーカーの最終的な設置場所が決まってから保護キャップを外してください。

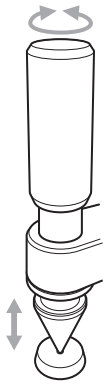
4つの保護キャップを外す場合は取り外す側を浮かせてひとつづつ外します。

⚠ **手を挟まないようにご注意ください。**



2 スピーカーの傾きの調節をする。

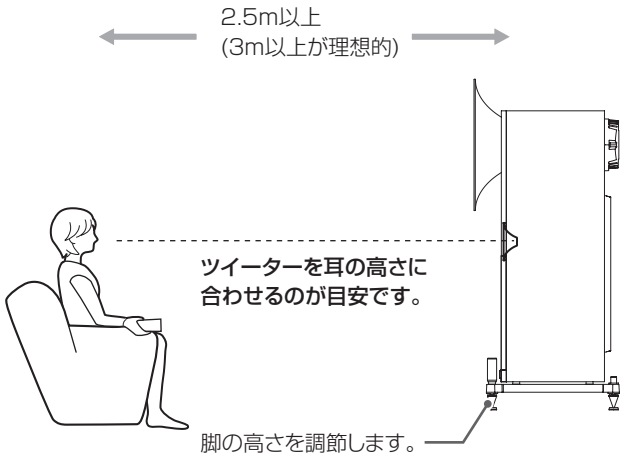
スパイク脚のつまみを右回りに回すと、脚が高くなります。
スパイク脚のつまみを左回りに回すと、脚が低くなります。



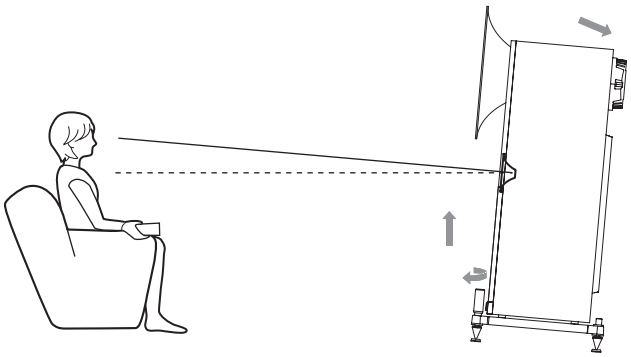
前面2カ所の脚の高さを調節して全体の傾きを補正してください。後ろの足の高さは調節できません。

次のページに続きます

スピーカーの向きの調節（続き）



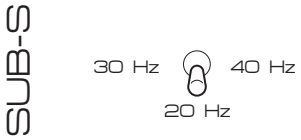
下図のように、ツイーターホーンがリスニングポジションで耳の位置を向くようにスパイク脚のつまみを調節してください。



サブソニックフィルター

● 一部のCDなどで低音を強調して録音されているものがあります。このようなCDを再生するときはSUB-Sスイッチを30Hzまたは40Hzに切り替えると、バスホーンに余分なストレスをかけずにダイナミックレンジを確保することができます。

● LPレコードを再生する時は、サブソニックフィルターが必要となる場合があります。アンプにサブソニックフィルターが装備されてない場合は、本機のSUB-Sスイッチを30Hzまたは40Hzに切り替えてご使用ください。



インテリジェントサブソニックフィルター

本機はインテリジェントサブソニックフィルターを備えています。

このフィルターは、SUB-Sスイッチで設定するフィルターに加えて、それより高い周波数の過大な低音が入力された時に、自動的にサブソニックフィルターの周波数を最高80Hzまで変化させる働きをします。
これによって、中低音のダイナミックレンジを損なわずに過大な低音をカットすることができます。

過大な低音の入力が終わると、フィルターは設定された値に戻ります。

仕　様

型式
ホーンスピーカー
+アクティブサブウーハー (SUB221)システム

電源電圧 100V, 50-60Hz

ヒューズ定格 3.15A

消費電力 (最大) 330W

消費電力 (無信号時) 約15W

最大出力 (サブウーハー) 250W

周波数特性 . . . 290～20,000Hz (ミッドレンジ/ツイーター部)
18～350Hz (サブウーハー部)

最大許容入力 50W

能率 (1w/1m) 104dB

クロスオーバー周波数 290/3,000Hz

入力インピーダンス 8Ω

推奨パワーアンプ出力 10W以上

推奨室サイズ . . . . . 16m^{2}以上

ホーンカーブ . . . . . スフェリカル　180°

ホーン材質 . . . . . ABS樹脂

ホーン面積 (開口部) . . . . . 0.196m^2 (ミッドレンジ)
0.013m^2 (ツイーター)

ホーン直径 . . . . . 500mm (ミッドレンジ)
130mm (ツイーター)

ホーン長さ . . . . . 280mm (ミッドレンジ)
65mm (ツイーター)

外形寸法 (W×H×D) . . . . . 500×1,240 (±15)×590mm

質量 約55kg

付属品 (左右2台分)
- ジャンパーケーブル×2
- アース用ジャンパーケーブル×2
- アースケーブル×2
- 電源コード×2
- ヒューズ(予備)×2
- フットベース×8
- 取扱説明書×1
- 保証書×1

● 仕様およびデータはドイツ Avantgarde Acoustic 社の発表によるものです。

● 仕様およびデータは、付属品の項を除き、1 台分の数値です。

● 仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。

お手入れ

● ホーン、キャビネット、スタンドの表面が汚れたときは乾いた柔らかい布で拭いてください。ひどい汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いたあと、固く絞った布で水拭きしてください。

● サブウーハーのグリルに付いたほこりは、洋服用のブラシで払うか、掃除機(弱)で吸い取ってください。

⚠ **お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。**

中性洗剤は、目立たない部分で試してからお使いください。

ゴムやビニール製品を長時間触れさせると、表面を傷めることがありますので避けてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナー、研磨剤などで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

ホーンの奥にある振動板には触らないでください。

エージング

使い始めには、注意深くエージング(ならし運転)をすることによって、電源回路およびユニットの寿命を延ばし性能を高めることができます。
エージングは、サブウーハーの電源をオンにした状態で、適度な音量で延べ40時間以上行ってください。

● ミッドレンジドライバーを単体で、またはホーンを外した状態で絶対にエージングしないでください。単体・ホーン無しの状態では能率が低いため、想像以上に音量が上がり、ボイスコイルが切れたり熱でユニットが変形するなどして、故障の原因になります。

フロントグリルの脱着について

本機のサブウーハーのフロントグリルは取り外して使用することができます。

電源ケーブルや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
5年に1度は、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に内部の点検をご依頼ください。
費用についてはお問い合わせください。

保証とアフターサービス

■保証書

この製品には保証書が添付されています。
保証書は、販売店が所定事項を記入してお渡しいたします。「販売店名・お買い上げ日」など、記載事項をお確かめのうえ、お受け取りください。また、保証内容をよくお読みいただき、大切に保存してください。

● 保証期間は、お買い上げ日より１年です。

■修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談、およびご不明な点は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にお問い合わせください。

■保証期間中は

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って修理させていただきます。
詳細につきましては、保証書をご覧ください。

■保証期間が過ぎているときは

保証期間経過後の修理は、修理によって機能が維持できる場合、お客様のご要望により有料修理させていただきます。

■ご連絡いただきたい内容

型名：avantgarde(アヴァンギャルド) uno(ウノ) fino(フィーノ)

シリアルナンバー：
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況 (できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要になる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。
この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

エソテリック株式会社

〒 206-8530　東京都多摩市落合 1-47　　http://www.esoteric.jp/

この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

AVお客様相談室

市内通話料でOK ナビダイヤル　0570-000-701

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒206-8530　東京都多摩市落合1-47
電話：042-356-9235 / FAX：042-356-9242

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター

市内通話料でOK ナビダイヤル　0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒358-0026　埼玉県入間市小谷田858
電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

PRINTED IN JAPAN　0313·MA-1964A